

平成26年度 おじか・きぬ漁協管内 「溪流釣りに関するアンケート調査結果」

【目的】

より良い溪流漁場の管理方法について考えるために、おじか・きぬ漁協管内での溪流釣りの実態について、アンケートにより調査しました。

1. 釣り人の実態と漁獲規制に対する意識

- ・住所、釣り方、年齢
- ・満足できる釣果
- ・漁場に対する評価
- ・漁獲規制への意識

2. 釣獲実態

- ・1日あたりの平均釣果
- ・漁場全体での年間の釣獲尾数と持ち帰り尾数
- ・釣れ具合の季節変化
- ・漁場ごとの釣れ具合

【調査方法】

年券購入者には1年間の釣行全てについて、日券購入者にはその日の釣行について、釣行場所と釣獲尾数、および持ち帰り尾数について回答してもらいました。また、漁場への評価や漁獲規制への賛否についても回答をお願いしました。



図1 おじか・きぬ漁協管内模式図
(赤い網掛け部分は、禁漁・休漁河川。釣行場所については、①～⑬の番号で記入。)

【調査結果】

・溪流釣りの有資格者

平成26年の溪流釣りの有資格者数は年券859人、日券2,648人でした。

表1 発券枚数

種類		枚数
日券	溪流	2,648
年券	溪流	778
	全魚種	17
組合員	溪流	51
	鮎	13

1. 釣り人の実態と漁獲規制に対する意識

年券の有資格者60名（組合員2名、遊漁者38名、不明20名）、日券の有資格者110名から回答を得ました。年券で2名、日券で1名の女性が含まれていました。

・釣り人の住所

最も多かったのは、年券、日券ともに県内の釣り人でした。二番目に多かったのは、年券では埼玉県の釣り人、日券では東京都と千葉県の釣り人でした。

県外の釣り人が、年券の57%、日券の75%を占めていました。

表2 アンケート回答者の住所

	日券	年券
栃木	27	23
埼玉	12	15
東京	21	5
茨城	15	5
千葉	21	2
福島	1	1
神奈川	3	2
新潟	0	1
群馬	7	0
長野	2	0
計	109	54

・釣り方

最も多かったのは年券ではエサ釣り（54%）、日券ではフライ（43%）の釣り人でした。二番目に多かったのは、年券ではフライ（25%）、日券ではエサ釣り（30%）の釣り人でした。年券の46%、日券の70%をエサ釣り以外の釣り人が占めていました。

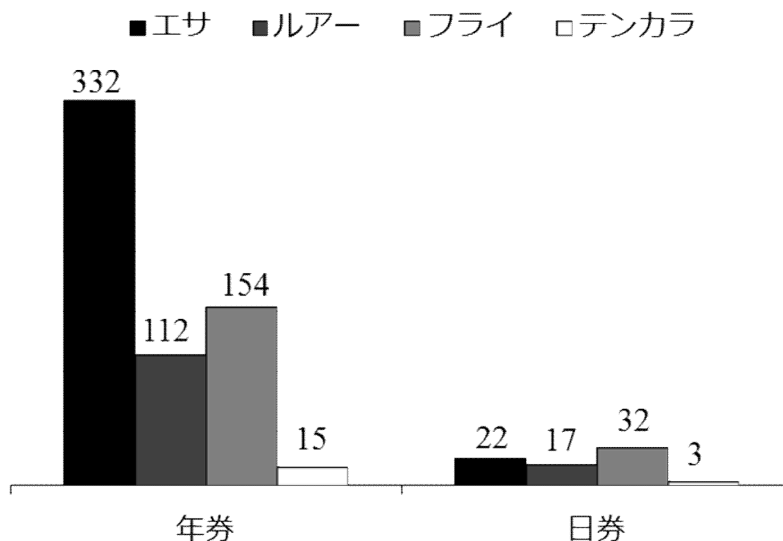


図2 アンケート回答者の釣り方
(年券者については、釣行日ごとに集計した。)

・年齢と溪流釣り歴

釣り人の平均年齢は、年券で56.8歳、日券で50.8歳でした。年齢構成を見てみると、50歳以上60歳未満の釣り人が最も多く、全体の33%を占めていました。60歳以上は30%、40歳以上50歳未満は27%、40歳未満はわずか10%でした。

溪流釣り歴の平均は、年券で23.1年、日券で20.0年でした。ここ5年以内に溪流釣りを始めた釣り人は、全体の15%でした。

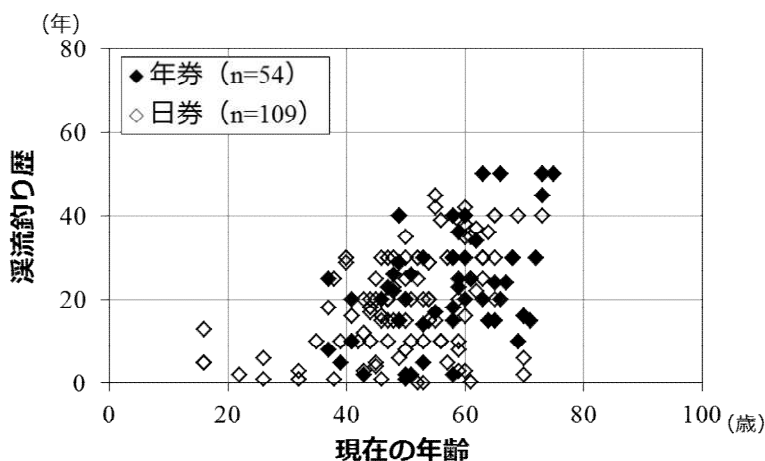


図3 アンケート回答者の年齢と溪流釣り歴

・満足できる釣果

年券の釣り人、日券の釣り人ともに満足できる釣獲尾数の平均は1日あたり9.7尾でした。

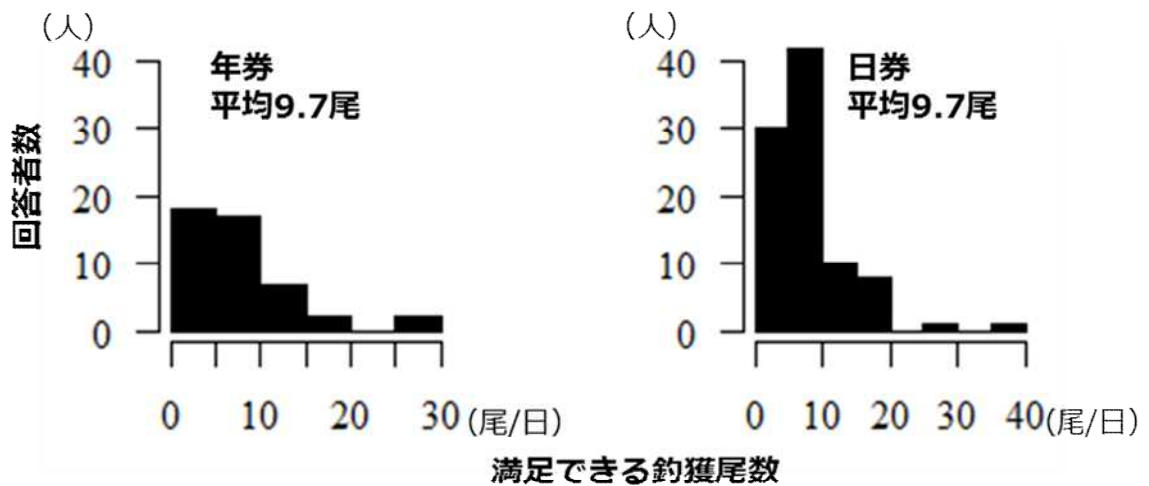


図4 1日の釣りで期待する釣獲尾数

・漁場に対する評価

おじか・きぬ漁協管内の漁場について、満足しているところと不満なところを聞きました。その結果、年券の釣り人で“魚の数”についての満足度がマイナスの値となっていた以外は、全ての項目で満足度の平均がプラスの値でした。

“魚の数”よりも魚の質(“魚の大きさ”“魚の姿かたち”)の評価が高く、また、“環境”や“釣り券の値段”への評価が高くなっていました。

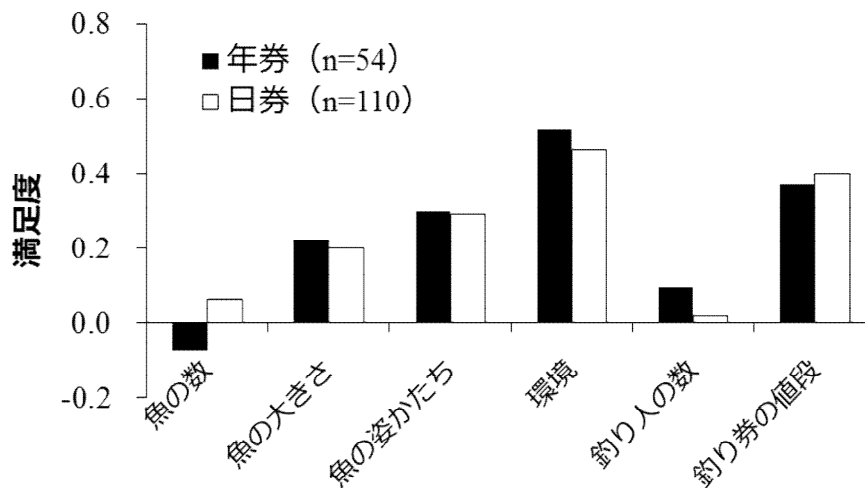


図5 漁場環境への満足度
(満足:+1、どちらでもない:0、不満:-1として集計)

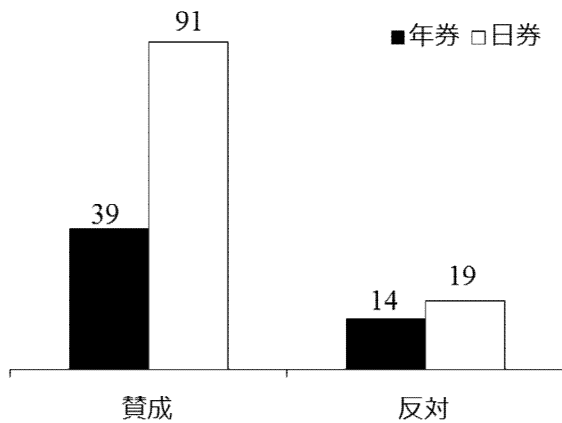
・漁獲規制への意識

C&Rの導入については、年券の釣り人で69%、日券の釣り人で89%が賛成でした。

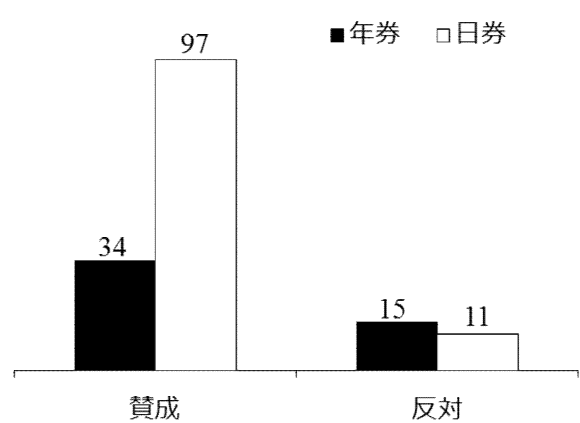
持ち帰り尾数の制限については、年券の釣り人で74%、日券の釣り人で83%が賛成でした。

体長制限については、年券の釣り人で33%、日券の釣り人で36%が引き上げに賛成でした。

Q.C&Rの導入についてどう思うか？



Q.持ち帰り尾数の制限についてどう思うか？



Q.現在の体長制限（15cm以下の採捕禁止）についてどう思うか？

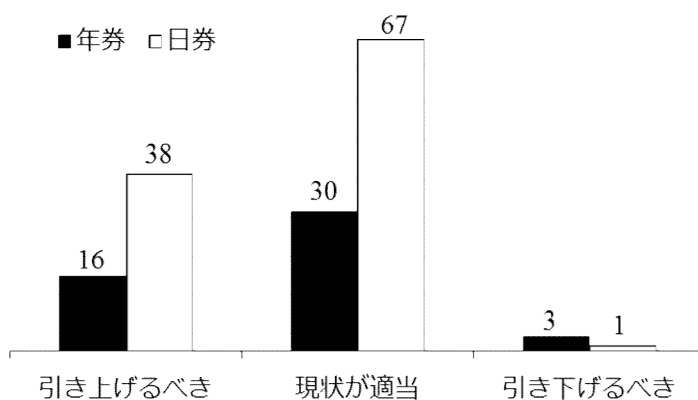


図6 漁獲規制への意識

2. 釣獲実態

・入漁者数

年券の釣り人の釣行日数の平均は9.5日でした。

この結果と発券枚数から、平成26年のおじか・きぬ漁協管内での溪流釣りの入漁者数は、

年間10,823人(年券:8,175人、日券:2,648人)

と推定されます。

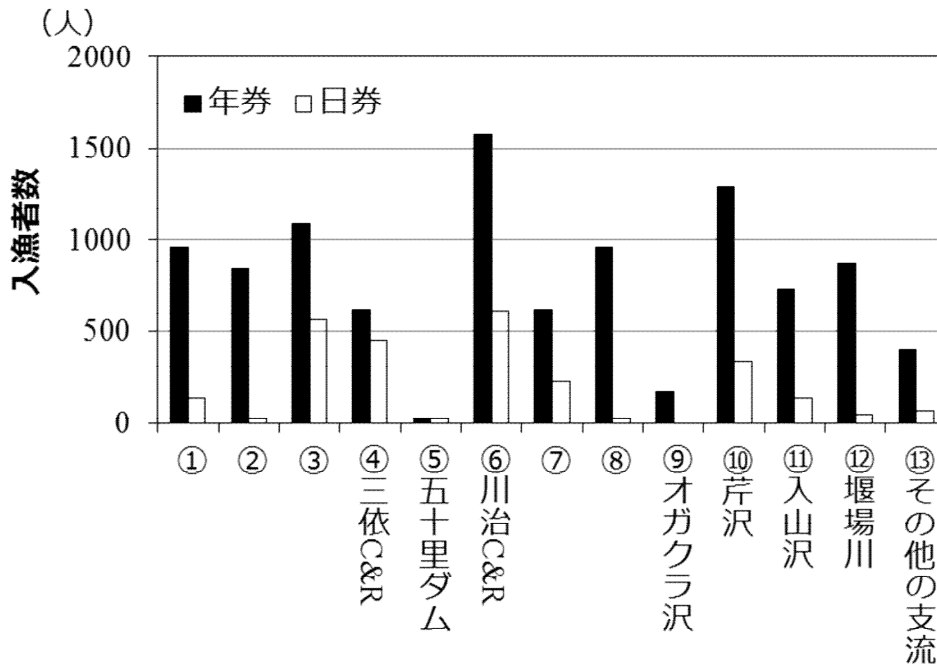


図7 漁場ごとの年間入漁者数

漁場ごとの入漁者数を見てみると、最も多かったのは年券の釣り人、日券の釣り人ともに⑥川治C&Rでした（年券：1,575人、日券：611人）。二番目に多かったのは、年券の釣り人では芹沢（1,289人）、日券の釣り人では区間③（566人）でした。

C&R区間（④三依C&R、⑥川治C&R）への入漁者数は、年券の釣り人で2,190人（46%）、日券の釣り人で1,064人（70%）でした。

・1日あたりの平均釣果

1人1日あたりの平均釣獲尾数は、年券の釣り人で8.5尾、日券の釣り人で5.7尾でした。

1人1日あたりの平均持ち帰り尾数は、年券の釣り人で4.5尾、日券の釣り人で1.6尾でした。

持ち帰り率（持ち帰り尾数/釣獲尾数×100）は、年券の釣り人でヤマメ47%、イワナ67%、ニジマス37%、日券の釣り人でヤマメ31%、イワナ49%、ニジマス3%でした。

表 3 アンケート回答者の総釣果と平均釣果

		ヤマメ		イワナ		ニジマス	
		釣獲	持ち帰り	釣獲	持ち帰り	釣獲	持ち帰り
年券	総釣果	1,840	864	1,891	1,270	1,140	417
	平均釣果	3.2	1.5	3.3	2.2	2.0	0.7
日券	総釣果	246	77	187	92	193	6
	平均釣果	2.2	0.7	1.7	0.8	1.8	0.1

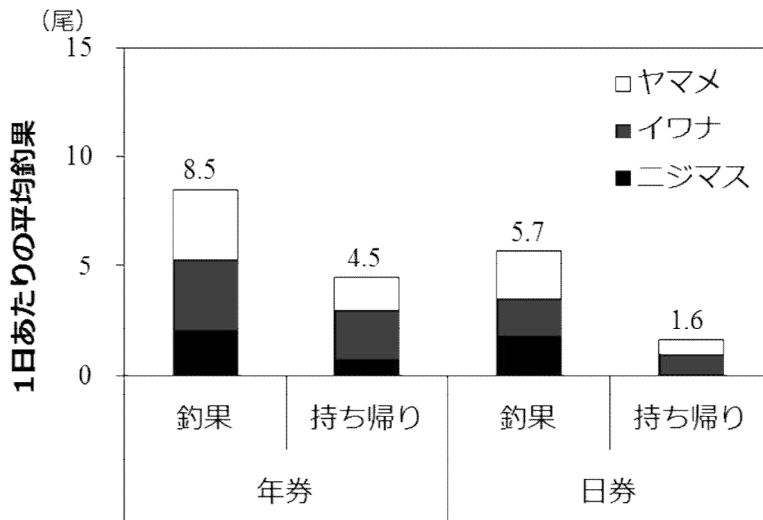


図 8 釣り人 1 人 1 日あたりの平均釣果と持ち帰り尾数

・漁場全体での年間の釣獲尾数と持ち帰り尾数

釣獲尾数は

年間84,806尾(ヤマメ:32,265尾、イワナ:31,574尾、ニジマス:20,967尾)

持ち帰り尾数は

年間40,735尾(ヤマメ:14,223尾、イワナ:20,397尾、ニジマス:6,114尾)

と推定されました。

表 4 おじか・きぬ漁協管内での年間の釣獲尾数と持ち帰り尾数

		ヤマメ		イワナ		ニジマス	
		釣獲	持ち帰り	釣獲	持ち帰り	釣獲	持ち帰り
年券	総釣果	26,343	12,370	27,073	18,182	16,321	5,970
	SD	4,342	3,038	7,787	7,377	3,492	2,311
	CV	0.16	0.25	0.29	0.41	0.21	0.39
日券	総釣果	5,922	1,854	4,502	2,215	4,646	144
	SD	1,061	639	1,187	534	821	66
	CV	0.18	0.34	0.26	0.24	0.18	0.46
合計	総釣果	32,265	14,223	31,574	20,397	20,967	6,114
	SD	4,470	3,105	7,877	7,397	3,588	2,312
	CV	0.14	0.22	0.25	0.36	0.17	0.38

SD：標準偏差、CV：変動係数

・釣れ具合の季節変化

ヤマメとイワナについて、解禁からの日数が進むほど釣れ具合が低下するような傾向はみられませんでした。

ニジマスについては、放流が多い春と秋に釣れ具合が上昇する傾向が見られました。

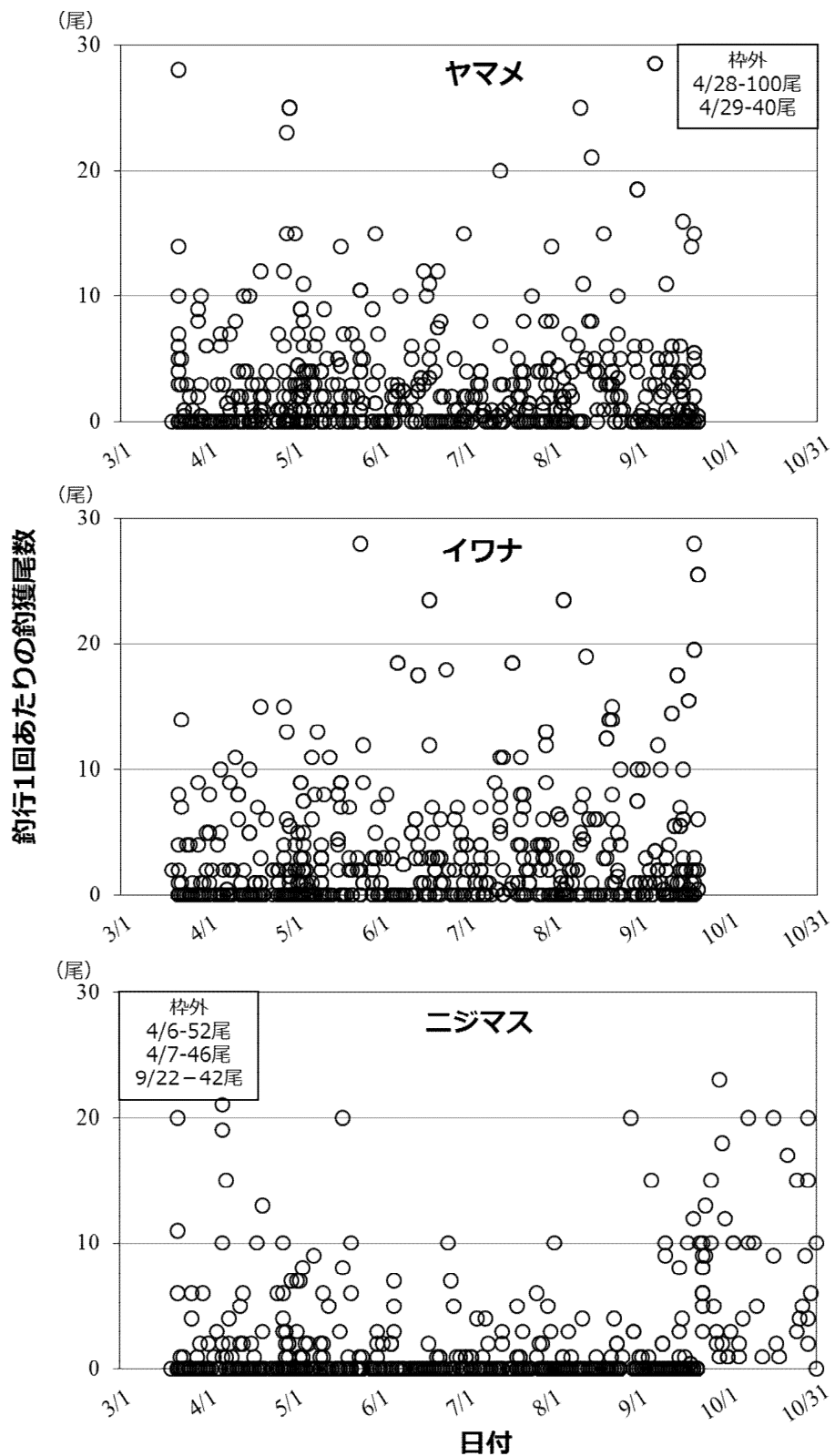


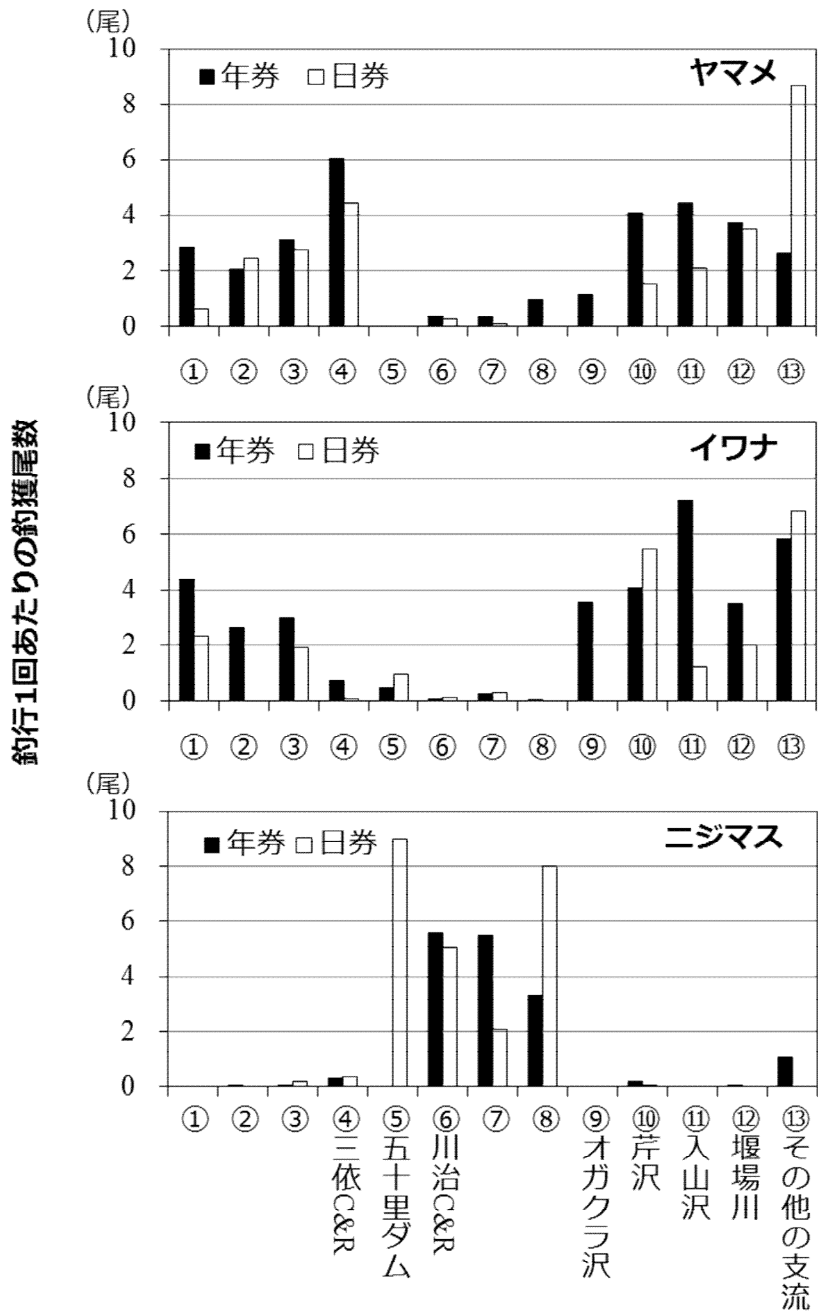
図9 釣獲尾数の季節変化

・漁場ごとの釣れ具合

日券の釣り人については釣行回数が数回しかない漁場もあるため、年券の釣り人の釣れ具合のほうが、実際の釣れ具合を良く反映していると考えられます。

そこで年券の釣り人の釣れ具合を見てみると、ヤマメ・イワナは主に本流の上流部と各支流、ニジマスは五十里ダムより下流の本流で良く釣れており、両方とも良く釣れるという漁場はありませんでした。

最も釣れ具合が良かった漁場は、ヤマメで④三依C&R (6.1尾/釣行)、イワナで⑪入山沢 (7.2尾/釣行)、ニジマスで⑥川治C&R (5.6尾/釣行) でした。ただし、放流直後に大釣りをした2名 (4/28:100尾、4/29:40尾) の釣果を除くと、④三依C&Rでの釣れ具合は2.2尾/釣行となります。この場合、ヤマメが最も良く釣れた漁場は⑪入山沢 (4.4尾/釣行) でした。



アンケート回答者の釣行回数

	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬
年券	67	59	76	43	2	110	43	67	12	90	51	61	28
日券	6	1	25	20	1	27	10	1	0	15	6	2	3

図 10 漁場ごとの釣獲尾数

【まとめ】

◇ 釣り人の実態

どこから？

- ・約6～8割が県外からの釣り人

釣り方は？

- ・約5～7割がエサ釣り以外の釣り方

年齢は？

- ・最も多かった世代
→50歳以上60歳未満（全体の33%）
- ・若齢層の釣り人が少ない
→40歳未満の釣り人はわずか10%
- ・初心者が少ない
→ここ5年以内に溪流釣りを始めた釣り人は15%

◇ 漁獲規制に対する意識

C&Rの導入や持ち帰り尾数の制限についてどう思うか？

- ・約7～9割が賛成

体長制限についてどう思うか？

- ・現状（15cm以下の持ち帰り禁止）のままで良いという釣り人が大部分
- ・約3割が引き上げに賛成

◇ 釣獲実態

入漁者数は？

- ・年間10,823人（年券：8,175人、日券：2,648人）

年間でどれくらい釣れたか？

- ・釣った尾数（持ち帰った尾数）
→年間84,806尾（40,735尾）

釣れ具合は？

- ・1日に釣った尾数（持ち帰った尾数）
→年券の釣り人で8.5尾（4.5尾）、日券の釣り人で5.7尾（1.6尾）
- ・実際の釣果は、満足できる釣果（9.7尾）を下回る

◇ C&R区間について

入漁数は？

- ・年券の釣り人の約5割、日券の釣り人の約7割がC&R区間への釣行

釣れ具合は？

- ・川治C&R
→1日あたりニジマス5.5尾（全漁場のなかで一番）
- ・三依C&R
→1日あたりヤマメ2.2尾（全漁場のなかで7番目）
イワナ0.8尾（全漁場のなかで9番目）

※本調査は、水産庁「放流用種苗育成手法開発事業」の一部として実施しました。

水産試験場 指導環境室 担当：高木・綱川 TEL：0287-98-2888 FAX：0287-98-2885
